

が賢い大人の姿勢だと思えます。この主人は仕事にかこつけて、家庭や子育てから逃げています。相談を持ちかけると怒るのは、「俺を面倒に巻き込むな」という本音の表れでしょう。娘さんなら、父親の「ことごとくカンケーない」といった雰囲気なのでしょうね。

用を何年も積み立てていてね」など、父親の存在感をさりげなくアピールしましょう。ご主人には「一生このままでいいの？」と脅しをかけはうえて、「君から上手に伝えるから」とアドバイスを頼んでみては。心配されている、頼られていると思えば、お互い悪い気はしないはず。もとは子煩悩な父、可愛がられた娘たちです。あなたが間に立つて溝を埋めていけば、家族の関係も改善されていくのではないのでしょうか。



Q 息子は定職に就かず、家を出るぞぶりも見せません

一昨年、大学を卒業した息子。就職活動に失敗し、大学時代に始めた居酒屋チェーン店のアルバイトも今年で5年になりました。「就職活動しないの？」「バイト先の正社員にはなれないの？」と聞くと、「不機嫌に「今はその気がない」という返事。夫が働いているうちはまだいいですが、このまま息子が家を出ず、就職活動もしないとなると不安でたまりません。

A 尾木さん

働いているだけ立派！ 若者の現実を知り、温かく見守ってあげて

子どもにいつまで経済的な援助をするかという調査で、「結婚するまで」という回答が日本では20%に達しています。ヨーロッパ諸国のように大学の学費も自分で稼ぐ、成人したら親元を離れるのが当然といった

社会と比べ、日本の親は甘すぎるという意見もあるでしょう。しかし新卒採用にこだわる企業文化や、若者の自立を支援する制度が整っていない日本の社会そのものにも問題がある、とボクは考えています。

息子さん卒業したのは平成21年です。その前年まで3年間売り手市場だった大卒の就職率が一転、60%台まで落ち込んだ年です。どれだけ酷な体験をして、しんどい思いをしたか。それを「就職に失敗」なんてかわいそうですよ。アルバイトとはいえ、ちゃんと働いているだけ立派なんですよ。5年も同じ職場だなんて、信頼され、仕事もできる証拠でしょう。

それなのに、「お母さんの口調にどこか「責める」ニュアンスを感じ取って、息子さんは傷ついているのじゃないですか。親御さんとしては、せっかく大学まで出たという気持ちがあるかもしれないけれど、いまや東大・京大・阪大といったブランド大学を卒業しても就職できない子がいっぱいいます。それは不景気の影響だけでなく、社会のグローバル化が進んで、国内の企業が優秀な留学生を採用し始めた結果でもあるのです。

雇用環境が激変し、日本の若者の就職難が深刻化している状況をお

夫も子どもも「わかってくれない」?

Q&A

家族をひとつにする方法を教えてください

妻として母として、家族の悩みは尽きないけれど、もしものときを考えると一致団結はしておきたい。家族の絆を取り戻したい。読者の声に、2人の専門家が提示した解決策とは？

構成◎山田真理 イラスト◎古村麗子

尾木直樹
おきなおき / 教育評論家
1947年滋賀県生まれ。臨床教育研究所「虹」所長。早稲田大学卒業後、中学や高校、大学の教壇に立つ。「尾木ママ」としてテレビ番組等でも活躍中。

辰巳渚
たつみ なぎさ / 生活哲學家
1965年福井県生まれ。「家事塾」主宰。ベストセラーとなった『捨てる技術』のほか、「父の作法」「子どもを伸ばすお父さん」など家庭に関する著書多数。

Q 夫が子どもの教育やしつけの責任を押しつけてきます

子どもは高校生で中学生の娘2人。娘が小さい頃は夫も面倒を見くれたのですが、最近は毎晩帰りが遅く、子育ては私に任せきり。長女が髪を染めたとき、次女の成績が下がったときに相談を持ちかけても、きちんと答えてくれず「母親のお前が育てない」と駄目じやないかと怒るばかり。忙しいのはわかって、「じゃあ父親は誰よ!」と言いたくなります。

A 尾木さん

娘の気持ちもわからず押さえつけるよりマシ。母親が理解の手助けを

「父親は誰よ」と言いたくなるお母さんの気持ち、わかるわね。子どもが小さくて可愛いときだけ関わって、あとは知らんぷりしてお父さんもわりと多いんですよ。ずるいわねけれど、お父さんの気持ちもわか

Q お母さんが買いメッセンジャーになって間を取り持つ工夫を

基本的に「人は愛わない」というのが私の考えです。誰かを愛えようとして苦しむより、自分の考えや相手との接し方を変えることで人間関係をよりよい方向に変える。それ

A 辰巳さん

お母さんが賢い

るのね。高校生と中学生の娘さんでしよう。年頃の女の子の気持ちなんて男性には理解不能ですよ。まあ、ボクはわかりませんが、「愛」と相談者はお父さんにも「娘たちを叱ってほしい」と思っているのかもしれない。それは少し危ないかも。というの、父親が、特に女の子の心にはずかすかと入り込んで、その子の好きなことや交友関係を否定したり、「勉強もしないで何をやってる」「居た高に押さえつけて」と、その父親の関係を一生修復できないほど壊れてしまいますか。

お父さんが娘さんたちの言葉を理解できるよ、お母さんも自分の娘時代を思い出して「あの年頃はこうなのよ」と教えてあげてはどうかしら。少しずつでも理解が進めば、お父さんの態度も変わると思いますよ。